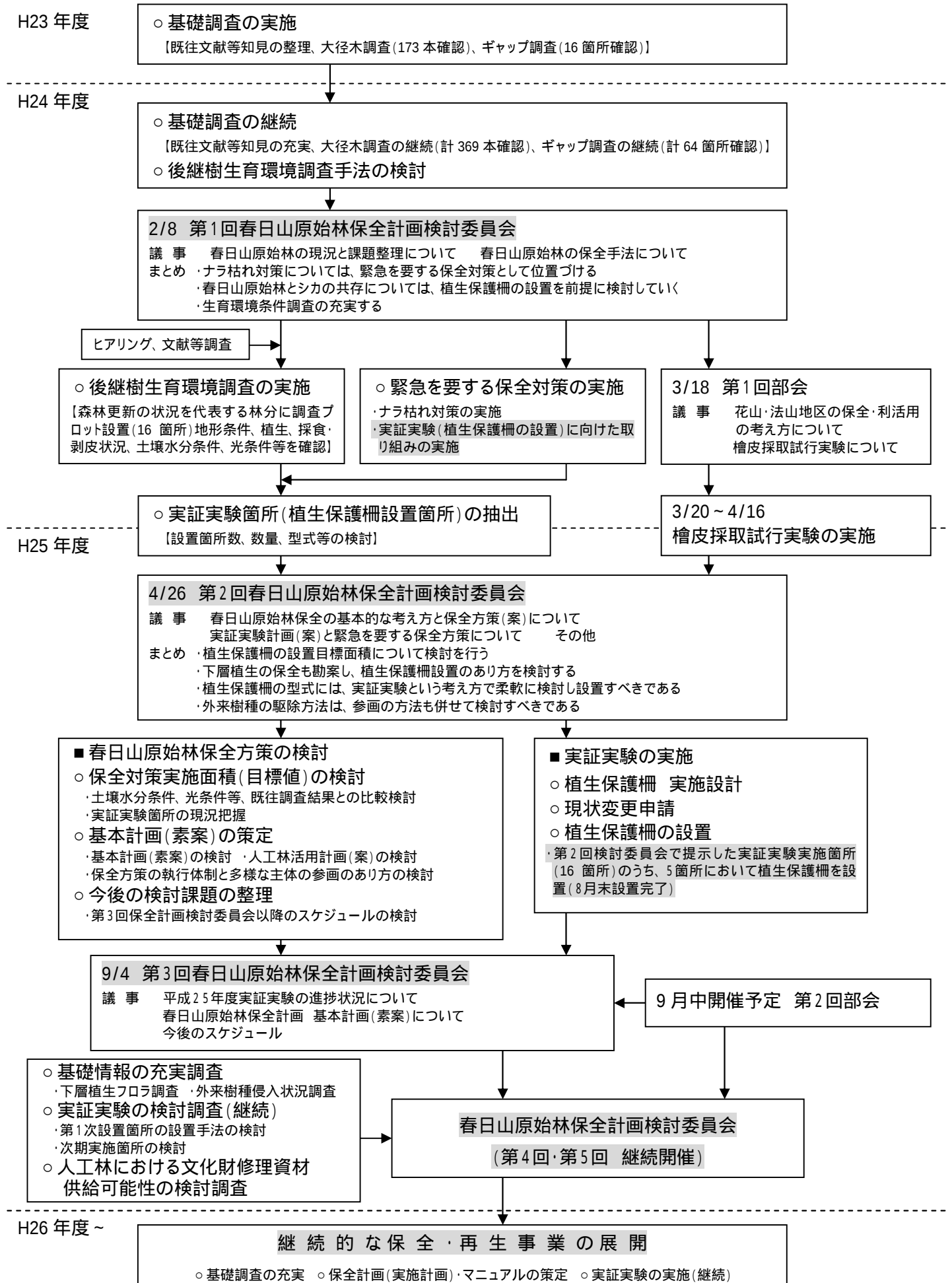


春日山原始林保全に関わる検討・事業進捗状況



第1回 春日山原始林保全計画検討委員会 議事要旨(速報)

日 時 : 平成25年2月8日(金) 午後1時00分～3時00分
場 所 : 奈良経済倶楽部 5階 大会議室
出席者 : 委員長 吉田 博宣
委 員 川瀬 浩、佐野 純子、田中 和博、前迫 ゆり、松井 淳、
宮城 俊作、山倉 拓夫
オブザーバー 文化庁記念物課 本間調査官
事務局 奈良県土木部まちづくり推進局奈良公園室
関係部局 《奈良県》風致景観課、森林整備課、奈良土木事務所、
奈良公園管理事務所、文化財保存課
《関係機関》春日大社、林野庁奈良森林管理事務所、
奈良市景観課、奈良市文化財課

議題 春日山原始林の現況と課題整理について
春日山原始林の保全手法について

議事要旨

- 春日山原始林の現況と課題について
 - ・ナラ枯れ被害は今後ピークを迎えると思われる。
 - ・春日山原始林と奈良のシカが共存してきた歴史は大切にしつつ、そのあり方についても認識すべきである。
- 春日山原始林の保全手法について
 - ・春日山原始林をシカと共存しつつ、森林更新を誘導する具体的な保全手法は防鹿柵をつくるしかない。その成果をモニタリングしながら保全手法へ反映していくべきである。
 - ・春日山原始林全域の大径木とギャップを把握する調査は、非常に価値があるので充実していただきたい。
 - ・ナラ枯れ対策は、初期対応が重要なので超短期的な取り組みとして検討すべきである。
 - ・文化庁では、検討委員会の議論に基づいた適切な保全手法であれば、特別天然記念物内での管理を許可している。
 - ・檜皮採取等、人工林の利活用も春日山原始林の保全手法の一環として関連付けながら整理していくべきである。
- その他
 - ・保全計画の策定期間については、必要な調査を順次調整する。
 - ・水文、土壌水分条件等の生育基盤については、検討委員会の議論を充実するためにも、外部の意見を積極的に取り込んでいただきたい。
- まとめ
 - ・ナラ枯れ対策については、緊急を要する保全対策として位置づける。
 - ・春日山原始林とシカとの共存については、防鹿柵の設置を前提に検討していく。
 - ・水文、土壌水分条件については、外部有識者へのヒアリング等により議論を充実する。

第2回 春日山原始林保全計画検討委員会 議事要旨

日 時 : 平成25年4月26日(金) 午後1時00分～3時00分

場 所 : 奈良県文化会館 2階 集会室A・B

出席者 : 委員長 吉田 博宣

委員 川瀬 浩、佐野 純子、田中 和博、前迫 ゆり、松井 淳、
宮城 俊作、山倉 拓夫

オブザーバー 文化庁記念物課 本間調査官

事務局 奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局奈良公園室

関係部局 《奈良県》風致景観課、森林整備課、奈良土木事務所、
奈良公園管理事務所、文化財保存課
《関係機関》春日大社、林野庁奈良森林管理事務所、
奈良市景観課、奈良市文化財課

議題 春日山原始林保全の基本的な考え方と保全方策(案)について
実証実験計画(案)と緊急を要する保全方策について
その他

議事要旨

- 春日山原始林保全の基本的な考え方と保全方策(案)について
 - ・モニタリング調査、外来樹種の駆除など、継続的な保全対策を実施するための執行体制を確立していきたい。その際に、パークマネジメントという観点も参考にすべきである。
 - ・植生保護柵の設置を県事業として、長期的にどのように位置づけて実施していくのか明確にしておくべきである。
- 実証実験計画(案)と緊急を要する保全方策について
 - ・植生保護柵設置により春日山原始林全域を保全するためには、どの程度の設置面積が必要なのか、目標面積を本検討委員会で議論したい。
 - ・春日山原始林は、地形毎に多様な特徴をもった森林である。春日山原始林全域を一様に評価するのではなく、立地特性と森林タイプに配慮し目標面積を検討すべきである。
 - ・実証実験なので、立地特性に柔軟に対応できるよう型式や施工性についても検証する。
 - ・原生的な自然環境において、除草剤による駆除は望ましくない。外来樹種の駆除は、伐採を基本に行うべきである。なお、「維持の措置」という考え方で現状変更は不要である。
 - ・ナラ枯れ被害を予測し、母樹からの種子確保という手法も併せて検討する。
- まとめ
 - ・植生保護柵の設置目標面積についての検討を行う。
 - ・下層植生の保全も勘案し、植生保護柵設置のあり方を検討する。
 - ・植生保護柵の型式には、実証実験という考え方で柔軟に検討し設置すべきである。
 - ・外来樹種の駆除方法は、参画の方法も併せて検討すべきである。

第3回 春日山原始林保全計画検討委員会 議事要旨

日 時 : 平成25年9月4日(水) 午後3時00分～5時00分
場 所 : 奈良経済倶楽部 5階 大会議室
出席者 : 委員長 吉田 博宣
委員 川瀬 浩、佐野 純子、田中 和博、前迫 ゆり、
松井 淳、山倉 拓夫
オブザーバー 文化庁記念物課 本間調査官
事務局 奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局奈良公園室
関係部局 《奈良県》風致景観課、森林整備課、奈良土木事務所、
奈良公園管理事務所、文化財保存課
《関係機関》春日大社、林野庁奈良森林管理事務所、
奈良市景観課、奈良市文化財課

議題 平成25年度実証実験の進捗状況について
春日山原始林保全計画 基本計画（素案）について
今後のスケジュール

議事要旨

- 平成25年度実証実験の進捗状況について
 - ・パネルとネットの2タイプは施工性や経済性を踏まえ設定した。
- 春日山原始林保全計画 基本計画（素案）について
 - ・保全再生の目標値は、今回の検討結果をベースにしながら実証実験の結果や今後の基礎情報を加味して充実すること。
 - ・また、そのために必要な調査は着実に取り組んでいく。
 - ・春日山原始林の管理に人間がどのように携わってきたか経緯も追加すべきである。
 - ・具体の管理においては、GISを活用し下層植生や動物の状況などデータを蓄積していくなど、データの管理方法を構築していくことが望まれる。
- 今後のスケジュールについて
 - ・外来樹種の除去手法の効率性を試行できるような調査を含めてほしい。
 - ・下層植生フロラ調査は、レッドデータブック等の調査結果を活用するとともに、その調査結果を今後の取り組みに継続的に活用できるよう、奈良の植物研究会など多様な主体と連携しながら実施すること。
 - ・県民へのわかりやすい発信という視点から、カスミサンショウウオなど動物を対象とした調査も実施すべきである。
- まとめ
 - ・今回は計画の素案であり、以下の件を加味して今後の計画の充実を図る。
 - ・保全再生の目標値の検討は、今回の検討結果をベースとする。
 - ・安定した林分における植生調査、土壌浸食状況、水生動物等の現状把握など、必要性に応じて調査を充実していくこととする。
 - ・具体の管理は、GISなどのツールを活用しながらデータ管理を行うことが望まれる。